

令和5年度 小林市立東方小学校 自己評価及び学校関係者評価書

4段階評価（4：期待どおり 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

学校経営ビジョン		「高い知性と豊かな心を持ち、心身共に健康で、互いに磨き合い高め合い、たくましく生き抜く児童生徒の育成」を目指し、9年間を見通した東方中学校との一貫教育を基盤に、支援学校との交流の充実も図りながら、本校の歴史や伝統、地域や保護者の思いや願い、児童の実態等を踏まえ、全職員が持てる力を存分に発揮し、主体的・組織的に参画する学校経営を実施する。【子どものつよさや可能性を最大限に引き出し、鍛え、伸ばす教育活動の創造】									
項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	数値目標	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価				関係者評価	学校関係者評価のコメント		
				教職員項目	教職員総合	保護者項目	保護者総合				
知育	学力の向上	ICTの効果的な活用 1・教育効果の高まる指導法の工夫（日常的なタブレットの活用、オンライン授業など）	タブレットPC各学年週8時間以上	どの学年も日常の授業で頻りにタブレットを活用しており、週8時間以上は、ほぼ達成している。オンライン学習については、給食センターやdocomo等とつないで授業を行った。また、SDGsに関するESD教育を推進し、専門的な知識をもつ講師を招いたり、生活科・総合的な学習の時間で探究学習を行ったりしている。その他、長期欠席児童へのオンライン授業も行った。週末・夏休み・冬休みに家庭へのタブレット持ち帰りを実施し、積極的に家庭での課題に活用でき校内の主題研究において、研究主任を中心にNRTテスト、全国学力・学習調査、みやぎ学力調査の分析を計画的に行い、本校児童の弱みとなっている学習内容について再度問題に取り組みせ、学力向上を図った。また、主体的・対話的深い学びに関するアンケート、情報機器の活用に関するアンケートによる実態把握を行い授業改善を図った。さらに、欠席等で授業内容の学習が遅れた児童については、個別の補充学習を実施した。特に、今年度はデジタルドリルの活用を図り、児童の理解度に応じた個別最適な学びの充実を図っている。	3.5		3.6		3.7	3.6	・docomo等とつないでの授業、専門的知識を持つ講師を招いての授業はよい。日常的にタブレットを活用し、子どもの可能性を引き出す授業がなされている。 ・時代にあった指導、デジタルドリルの活用、よいと思います。一つづつと遅れてしまうので取りこぼしは無いようお願いいたします。 ・感染症やその他の病気治療等により長期欠席する児童に対しオンラインによる対応等、素晴らしいと思います。また、一部の保護者には忙しい時間の中、児童のために積極的に読み聞かせを実施していただき感謝の気持ちで一杯です。 ・現代に沿った学習の取組がされていて、とても素晴らしいと思う。その反面、学年によってばらつきがあるようにも感じる。個々に応じた学習へのサポート、大変ですが、これからも丁寧にやってほしいと思う。 ・現状維持に努めていただきたいと思う。
		日々の授業の充実 2・個に応じたきめ細かな指導の徹底 ・主体的・対話的で深い学びの充実のための指導の工夫	学力調査分析各学年100%		3.4	3.4	3.3	3.6			
		読書の推進 3・よみろく会、学級担任等による読み聞かせ ・家庭読書の推進 ・図書館協力員との連携	読書量前年比プラス	本年度も夏休み・冬休み期間中に、PTA文化部と協力して、「家読（うちどく）」という企画を実施した。家庭からも児童からも好評を得た。また、図書館まつりや読書玉入れ、読書ビンゴを開催したり、給食時の放送で図書委員会が本の紹介を定期的に行ったりしたことで、時期による貸出冊数の低下を防いでいる。	3.5		3.8				
		地域人材、素材の活用及び一部教科担任制 4・関係機関、英語専科との連携 ・東方地区のキャリア教育、文化財の活用	地域人材、素材の活用	英語専科教員、ALTによる授業の充実を図っている。民生委員による裁縫の授業や地域素材であるオオトコ刀ワゴロモを活用した授業に加え、外部の有識者（市税務課、県総合博物館、トヨタ自動車、シンクオブアザーズ）を活用した授業を行った。今後も、外部人材を活用した体験活動など積極的に実施していく。	3.0		3.6				
徳育	心の教育の充実	道徳科の指導の充実 1・心を耕す授業の工夫、体験の場の工夫 ・デジタル教科書の有効活用	道徳科の時間の充実と交流活動の実践	道徳科を中心に、学校生活全般において「道徳性」を養う指導を行っている。道徳科では、デジタル教科書を有効に活用したり、道徳ノートに学びの足跡を残したりすることで、道徳的な判断力や心情、実践意欲が高まっている。また、こすもす支援学校との交流清掃等を通じて、多様性を認める心情が高まっている。	3.1		3.7		3.4	3.6	・予告なしの避難訓練はよい。通学路点検は不足。親もたまには子どもと一緒に歩いてみてはどうかと思う。子どもが通学コースを変更したとき親は知っているのか。その理由も。 ・支援学校さんとの交流は可能な限り続けてほしいです。お互いのためになります。 ・友達だけでなく誰にでも思いやりをもてる子に成長してほしいという気持ち、保護者の一番の願いだと思うが、東方小は支援学校との交流もあり、その点は私たち大人よりも子供たちの方が思いやりを持った行動をしていると思う。 ・いじめ不登校が無いということは、とても素晴らしいことだと思う。日頃からの先生方の努力のたまものだと思う。子ども達が学校生活を楽しく過ごせるよう、これからも頑張ってほしいと思う。 ・現状維持に努めていただきたいと思う。
		定期的な教育相談の実施と見届け 2・ラポートフォーラムの充実 ・全職員で行ういじめ・不登校対策の徹底	いじめ・不登校の未然防止100%	本年度：いじめ0件、不登校傾向0件 市教委、チーフコーディネーター、スクールカウンセラー、病院に早めに相談し、学校全体で支援体制を整え、保護者とも連携できていた。校内支援体制については、月1回の人権アンケートやラポートフォーラムにおいて、児童の状況の共通理解を進めるとともに、場合に応じて臨時支援委員会を開催するなど充実している。いじめ・不登校の未然防止100%を達成することができている。	3.6	3.4	3.2	3.6			
		異学年交流や支援学校との交流による連帯感の育成 3・集会活動、交流清掃、ふれあい交流等	ふれあい交流100%実施	支援学校との交流については、計画通りに「ふれあい清掃」、「ふれあい交流」、「持久走大会」が実施されている。「体育大会」は合同での実施ができなかったが、次年度は合同での実施予定である。活動を通して、児童の連帯感を深めることができ、他者を受け入れる姿勢が高まりがみられる。	3.6		3.7	3.6			
		時と場に応じたはじめある行動と危険予知能力の育成 4・完全無言、右一静歩 ・完全無言、右一静歩、ABC運動、避難訓練等	完全無言、右一静歩（定着率100%）	運営委員会が作成した年間目標のもと、完全無言・右一静歩・挨拶・立腰指導を全校で取り組んだ。朝のボランティア活動により、学校の環境美化が図られている。完全無言・右一静歩については、今後も継続した指導が必要である。	3.1		3.6				
		自他の生命やまきまりを守る指導の徹底 5・安全な登下校指導 ・施設の安全点検	安全な登下校施設、設備の安全点検（100%実施）	通学路点検を実施するとともに、集団下校や登校班会などを通して安全な登下校ができるように指導してきた。本年度も児童に予告しない避難訓練を実施し、危機意識を高め、自ら命を守る態度を育てることができた。施設、設備の安全点検は、計画通り100%実施できている。	3.5		3.6				
体育	体力の向上	体力の向上 1・体育の授業の充実と運動量の確保 ・三校合同大運動会の充実 ・持久走、なわとび運動の推進	体力テストの前年比アップ	令和4年度と令和5年度の体力テストの結果を比べると、全体的に若干の体力の向上がみられる。三校合同運動会は、支援学校が参加できなかったが、持久走大会には参加でき、交流を深めながら充実した大会が実施できた。次年度の合同運動会は、支援学校も参加の上で5月に実施予定である。	3.2		3.8		3.8	3.7	・健康の保持増進がなされていて素晴らしいです。 ・児童は少ないが縦割りのふれあいがあったよと思っています。昼休み近くを通ると子どもたちの声がかえるだけでほほ笑んでいます。 ・合同運動会では、支援学校が参加できなかったことは残念であるが、5月に実施したことにより熱中症対策の点でもよくなったのではないだろうか。感染症予防については、もう少し現在の学校の感染状況の報告や、保護者に体調の変化がある場合は無理な登校をさせないように呼びかけを強化してもよいのではないだろうか。 ・昼休みに子ども達と先生と一緒に遊ぶ姿を見かけます。ありがたいです。体力がなくなっていることが問題視される中、ケガしにくい体づくりをこれからも心がけてほしい。 ・現状維持に努めていただきたいと思う。
		運動を楽しむ態度の育成 2・昼休み時間の外遊びの奨励	外遊び定着度100%	昼休みに運動場で同学年や異学年の児童と仲良く遊ぶ姿が多く見られた。おにごっこやサッカー、ドッジボールなど様々な運動に親しみ、日常的な体力向上や肥満の解消につながっている。定着度100%までは至っていない。	3.2	3.2	3.6	3.6			
		立腰指導の徹底 3・授業開始・終了 ・時と場に応じた指導	話を聞く態度の育成 立腰100%	普段の授業、集会等をおして定着を図っている。全教室に立腰のポスターを掲示し、児童運営委員会のメンバーも呼びかけを行っている。長時間姿勢を保持できる児童が増えた。今後も継続した指導が必要である。	3.1		3.7				
		健康の保持増進 4・むし歯治療、フッ化物洗口の推進 ・歯磨き指導の徹底 ・感染症予防	むし歯治療100% フッ化物洗口100%実施	フッ化物洗口はほぼ計画通り実施できている。虫歯治療については、保健体育部を中心に啓発を図っている。現段階での虫歯治療率（45.2%）は昨年度より治療が進んでいない。また、新型コロナウイルス感染症は5類となったが、インフルエンザ等にも備え、必要な感染対策を徹底してきた。今後も継続して感染症予防に取り組んでいく。	3.3		3.7				
食育	食育の推進	食育週間の実施 1・年3回	食育チャレンジ週間の各家庭での実施100%	5月「食育にチャレンジ」、8月「食の贈り物in夏休み」を実施した。熱心な取組が数多く見られ、食に関する意識を高めることができた。3月の選定で「食育にチャレンジ」等を実施予定である。家庭もよく協力していただいております。	3.5		3.6		3.8	3.6	・色々なことへの感謝の気持ちが育っていくことでしょう。 ・給食センターが民間委託になるようですが、利益に頼って子どもたちの栄養、楽しみが減らないことを願います。 ・SDGsに取り組む中で、残食0は素晴らしいことだと思う。また、食育では各家庭できる範囲で取り組んでいただき、親子の絆も深まるよい取り組みだと思う。 ・食べることは生きることにつながっていることを、食育を通して教えていただきありがとうございます。 ・現状維持に努めていただきたいと思う。
		地域への愛着につながる食育指導 2・郷土料理・地産地消を取り入れた調理、体験活動		東方給食センターに協力していただき「給食感謝会」を12月に実施できた。センターの調理場とZOOMをつなぎ、その日の給食ができる様子を解説を聞きながら視聴できた。地域食材や地域そのものへの愛役につながる、実感を伴う学びとなった。	3.0	3.3	3.7	3.6			
		生産者への感謝の気持ちの育成 3・生活科、こすもす科、道徳科等による関連指導		生活科やこすもす科、道徳科と関連させて、生産者への感謝の気持ちを育てる指導を行っている。本年度も、給食感謝会と兼ねてオンライン授業が実施でき、給食センターの方々の思いなどを学ぶことができた。	3.3		3.7				
		肥満対策 4・食に関する研修や授業等の実施	朝食、残食ゼロ 外遊び定着100%	各学年残食を減らす努力を行い、バランスの良い食生活指導を徹底している。本校の残食は、ほぼ0である。	3.3		3.4				
その他	学信校頼づくれる	働き方改革による風通しの良い職場環境づくり 1・全職員で知恵を絞り、汗をかき、喜ぶチーム意識	勤務規律の遵守100%	日常の声かけ、研修等により、教職員のコンプライアンス意識は高く維持されている。職員同士のコミュニケーションが円滑に行われ、風通しの良い職場環境が構築されている。アンケートによると、本校職員の職場環境満足度は100%であった。	3.7		3.3		3.6	3.5	・信頼される学校づくりに頑張っておられて、ありがたい。 ・投稿を楽しみにしています。 ・教職員同士の仲の良さが保護者にも伝わり東方小の先生方には安心して子ども達を任せられる。コロナも5類になり、コミュニケーションをより深めるために、どどん飲みニケーションを重ね、よりよい環境づくりに今後も期待しています。 ・自分としてはあまり協力できていないと感じる。150周年をきっかけに、地域の方々との交流を深められるような学校であってほしいと願います。 ・現状維持に努めていただきたいと思う。
		学校の支援体制の確立 2・学校運営委員会、青少年育成市民会議、KSSVC 各委員会100%実施 等との連携		本年度は学校運営委員会、青少年育成市民会議は計画通り実施できている。学校に対する貴重なご指導、ご助言をいただくことができた。KSSVCやキャリア教育支援センターと常に連携し、協力関係を深めている。	3.4	3.4	3.4	3.6			
		魅力ある参観授業と学級懇談会の実施	授業参観率85% 学級懇談率80%	本年度も予定していた学校参観日をすべて実施し、授業参観率、懇談出席率が概ね70%を超えている。目標値には届いていないが、保護者の学校に対する協力体制はできている。	3.4		3.5				
		作品募集への積極的参加 4・宮日新聞等への投稿		これまでの投稿数は、前年度より減少している。今後、さらに児童の作品等を積極的に投稿していきたい。	2.9		3.6				
次年度の方向性についての 校長所見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常的なタブレットの活用やオンライン授業など、ICTを効果的に使いながら主体的・対話的深い学びを目指した授業を展開できた。今年度はデジタルドリルの活用を行うなどICTの活用が更に進んだ。次年度は、読解力・表現力の育成や探究型学習のさらなる充実を図りたい。 ○ 今年度も、PTA文化部と連携した「家読」が実施でき、児童の家庭での読書習慣が向上した。図書担当と図書協力員との連携による様々な取組が読書習慣の向上につながっている。次年度も継続した取組を行い、児童の読書習慣や読書スキルの向上を図りたい。 ○ 全職員の共通理解による児童への声かけや外部機関との協力により、不登校やいじめ、問題行動を大きく前止することができた。次年度も継続して、家庭や地域とも連携しながら児童の健全育成を図りたい。 ○ 体力テストの分析結果をもとに、中学校と連携したサーキットトレーニング等の継続した取組を実施できた。次年度も全校児童の外遊びの奨励により肥満傾向や運動不足の解消につなげていく。立腰指導についても継続的に指導していく。 ○ 家庭と連携した年3回の食育週間や給食感謝会により、食や地域食材に関する意識を高めることができた。次年度も継続した取組を通して、更に食に関する意識の高揚を図っていく。 ○ 風通しの良い職場環境が構築でき、全職員のチーム意識の醸成や働き方改革を推進することができた。次年度も継続して、地域等への情報発信を行い、保護者や地域と連携して令和6年度実施の150周年記念式典に向けた準備を進め、信頼される学校づくりに努めていきたい。 										